

アンケート等からみる、筑後市の現状と課題

「第3章 スポーツ推進施策」の起点となる「現状」と「課題」を、以下に記述します。
記載している比率については、下記の2つの調査結果等から引用したものです。各データの出所を、次のように表記します。

- ①平成27年9月に、16歳以上の2,000人の市民を無作為抽出して行った「運動・スポーツに関するアンケート」と、平成27年10月に、市内の小学5年生と中学2年生全員を対象に行った「スポーツに関するアンケート」＝〈スポーツアンケート〉（有効回収率51.5%）
- ②平成28年2月に、18歳以上の3,000人の市民を無作為抽出して行った「まちづくりアンケート」（総合計画の進捗状況を把握するために毎年実施）＝〈まちづくりアンケート〉（有効回収率41.7%）
- ③その他の人数や件数等については、〈住民基本台帳〉のほか、業務上毎年集計しているものです。

1 するスポーツ

(1) 運動・スポーツを通じた市民健康活動の推進

【現状】

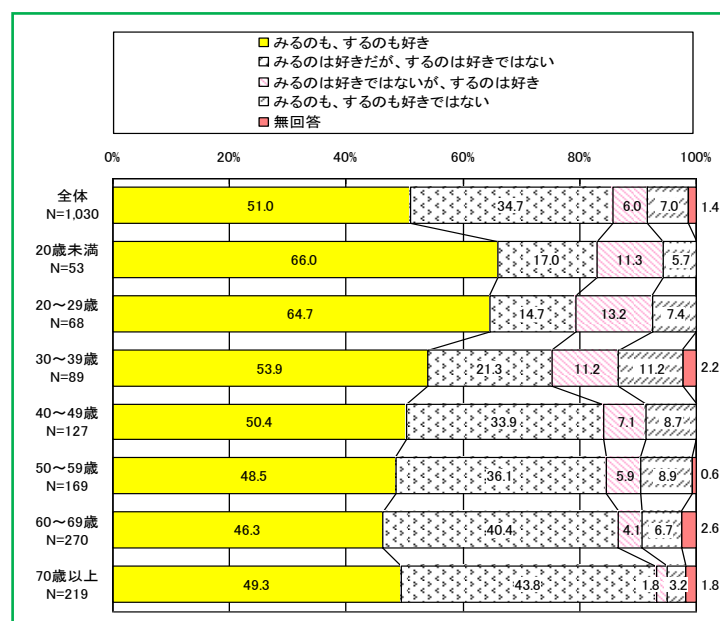
●進む高齢化

・平成27年10月1日時点、本市の高齢化率は25.4%で、全国平均（26.7%）よりは低いものの、福岡県平均（25.2%）を僅かに上回っています。28年3月31日時点では25.8%で、今後も高齢化が進んで行くと考えられ、高齢期を健康に過ごす必要があります。〈住民基本台帳〉

●スポーツをするのが好きな人が約6割

・スポーツを「みるのも、するの好き」と回答した人が全体の51.0%で、「みるのは好きではないが、するの好き」の6.0%と合わせると、「するの好き」な人は57.0%になります。〈スポーツアンケート〉

問. スポーツが好きですか。（答は1つだけ）

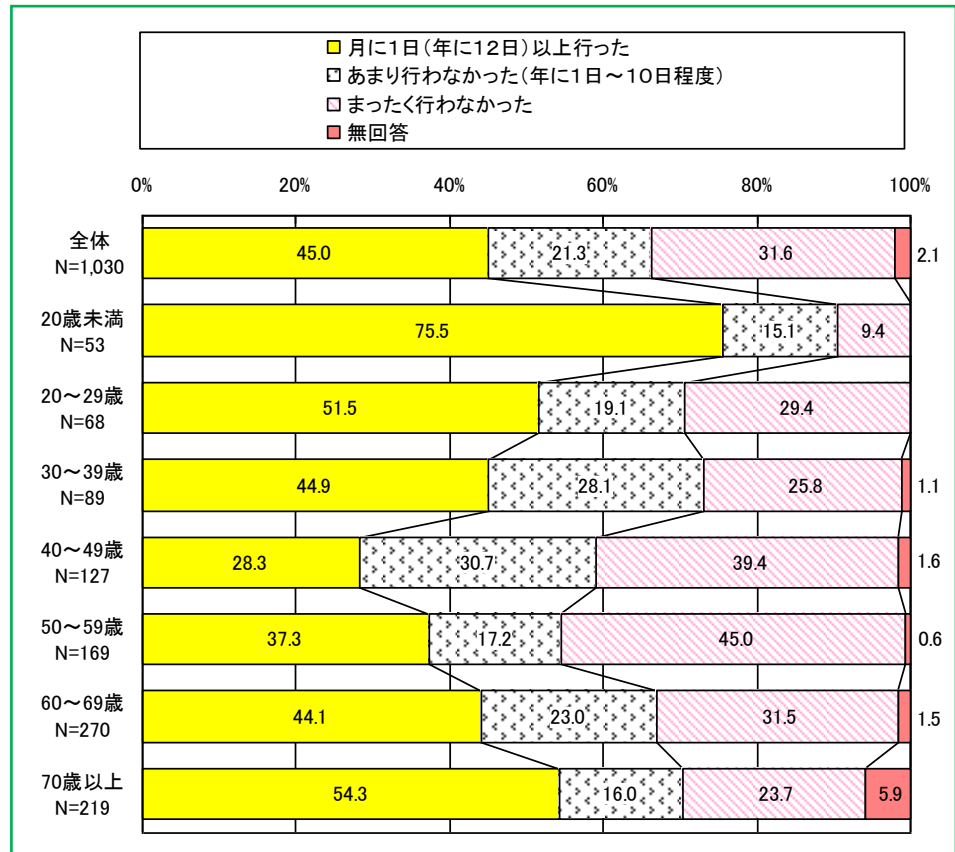


●4割以上の人が週に1日以上運動・スポーツを実施

・「月に1日以上運動・スポーツを行った」と回答した人が全体の45.0%です。このうち「週に1～2日」が17.7%と最も多く、「週に3日以上」が13.4%、「ほぼ毎日」が10.8%と続いており、週に1日以上運動・スポーツを実施する人が全体に占める割合は41.9%となっています。 参考：国47.5%（平成24年度）、福岡県36.3%（平成23年度）

一方、「全く行わなかった」人が全体の31.6%で、年齢階層別にみると、40～49歳で39.4%、50～59歳で45.0%と高くなっています。（スポーツアンケート）

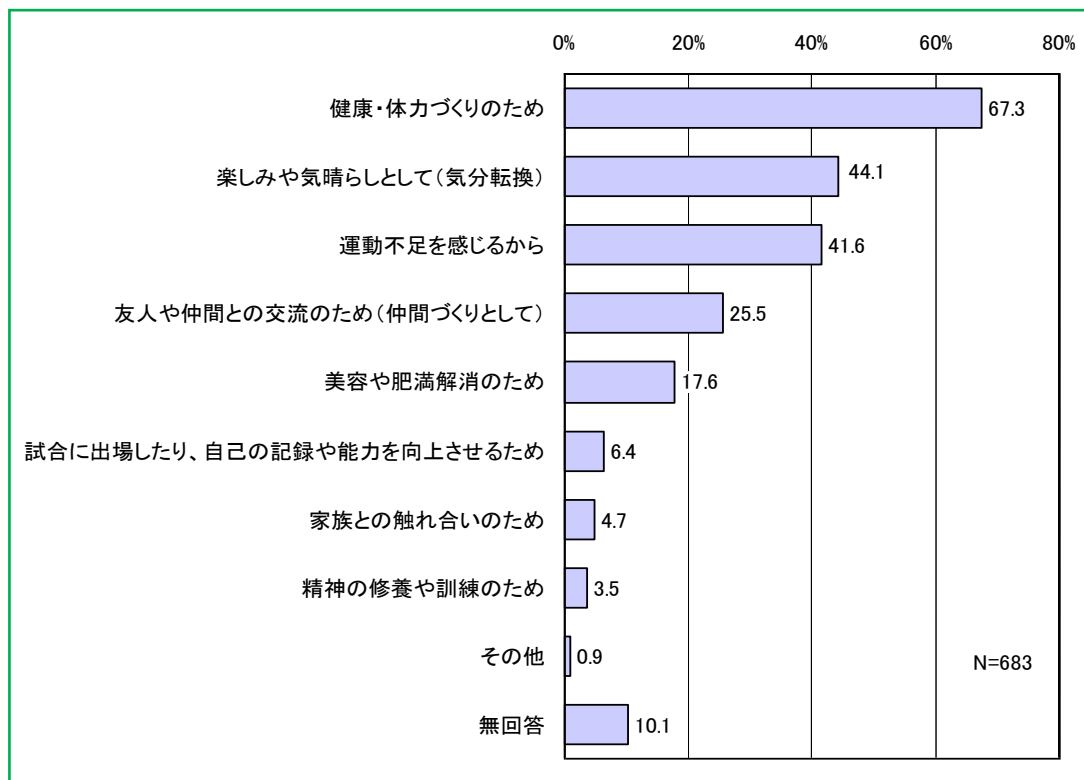
問. この1年間、運動・スポーツを行いましたか。（答は1つだけ）



●健康・体力づくりのために運動・スポーツをする人が多数、軽スポーツへの志向が高い

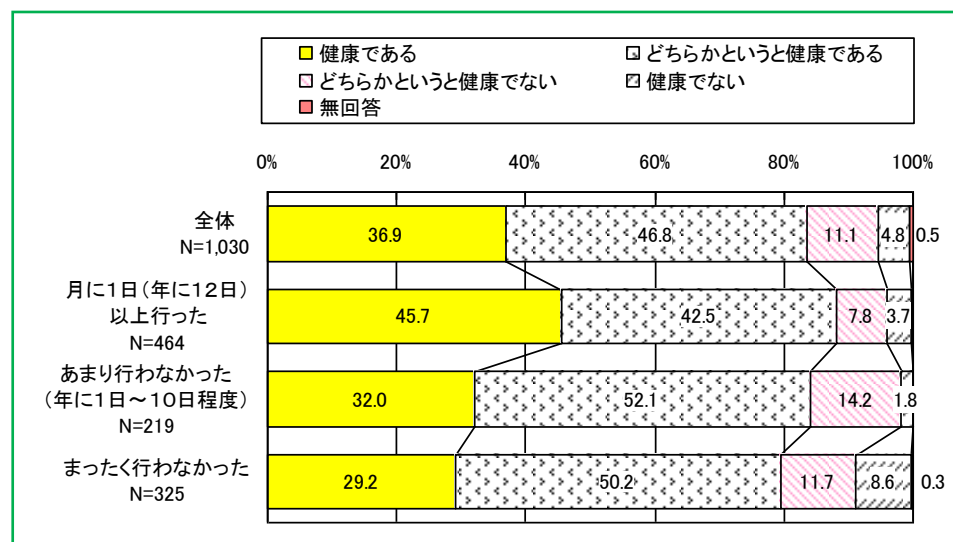
・運動やスポーツを実施する目的については、「健康・体力づくりのため」と回答した人が67.3%と最も多く、「楽しみや気晴らしとして」が44.1%、「運動不足を感じるから」が41.6%となっており、健康志向が高いことが伺えます。(スポーツアンケート)

問. (「月に1日以上行った」「あまり行わなかった」と答えた人に) 主にどのような目的で運動やスポーツをしていますか。(答は3つまで)



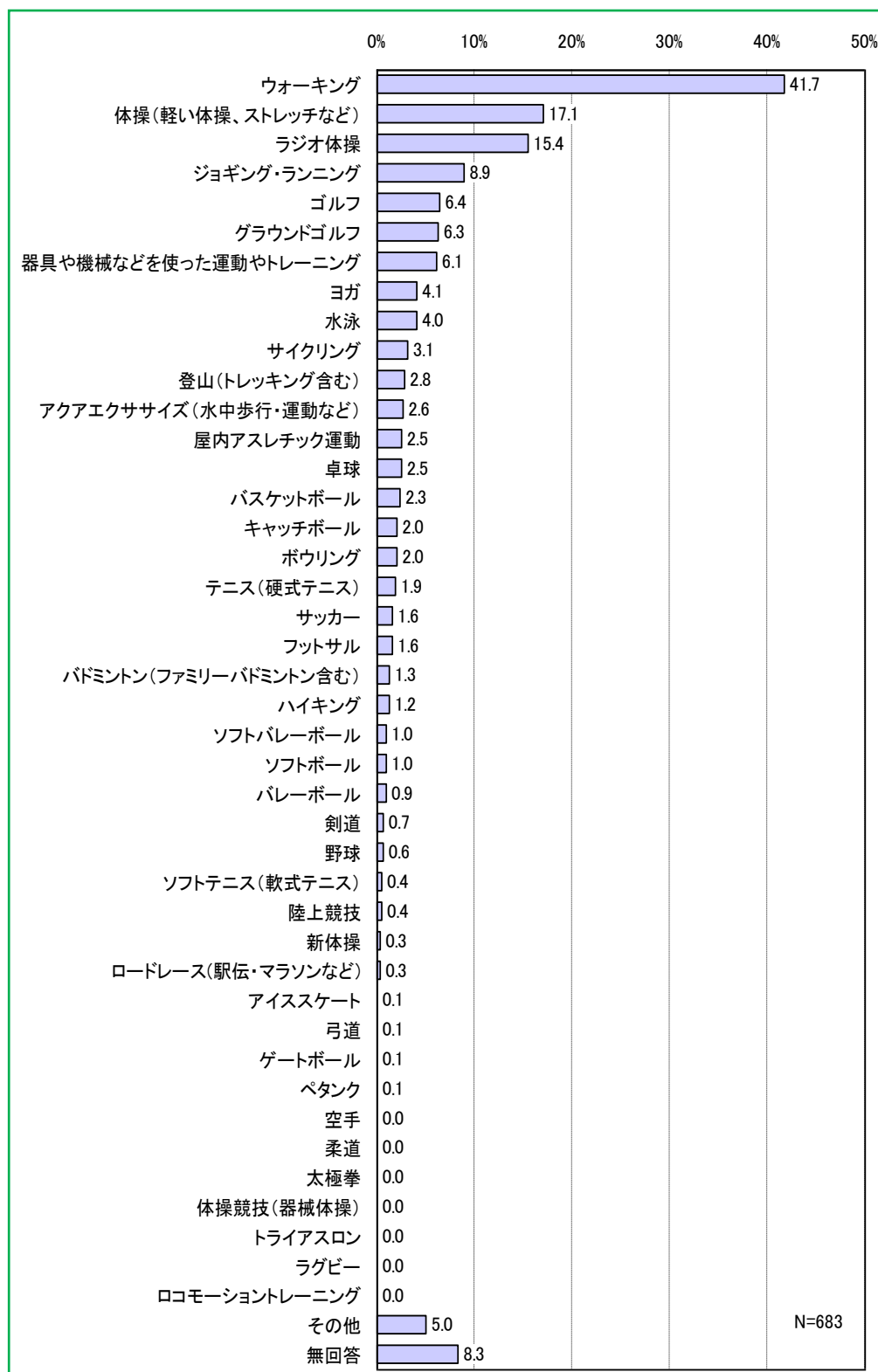
・「月に1日以上運動・スポーツを行った」と回答した人の方が、それ以外の人に比べて「健康である」と回答した割合が高くなっています。

問. 現在、健康だと思いますか。(答は1つだけ)



・実施した「運動」の中では、「ウォーキング」が41.7%で最も多く、「軽い体操・ストレッチ」が17.1%、「ラジオ体操」が15.4%、「ジョギング、ランニング」が8.9%と続いています。〈スポーツアンケート〉

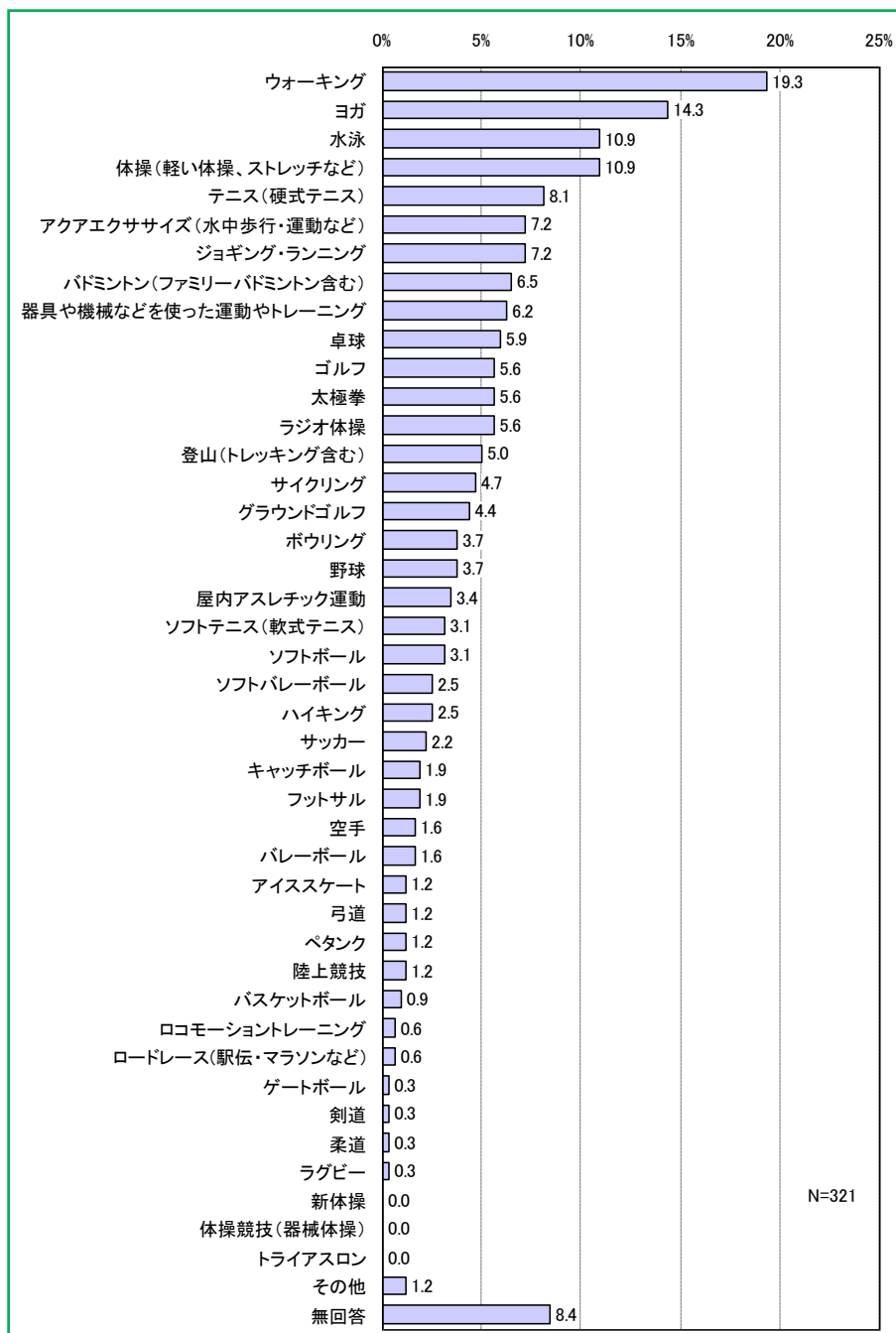
問. 「月に1日以上行った」「あまり行わなかった」と答えた人に)この1年間に行った、もしくは行っている運動・スポーツを教えてください。(答は4つまで)



・現在、運動・スポーツを「あまり行わなかった」「全く行わなかった」人が今後行ってみたい運動・スポーツとしては、「ウォーキング」が19.3%で最も多く、「ヨガ」が14.3%、「水泳」と「体操（軽い体操、ストレッチなど）」が10.9%で続いており、軽スポーツへの志向がうかがえます。

問.（現在運動・スポーツをしていなくて、今後してみたいと答えた人に）

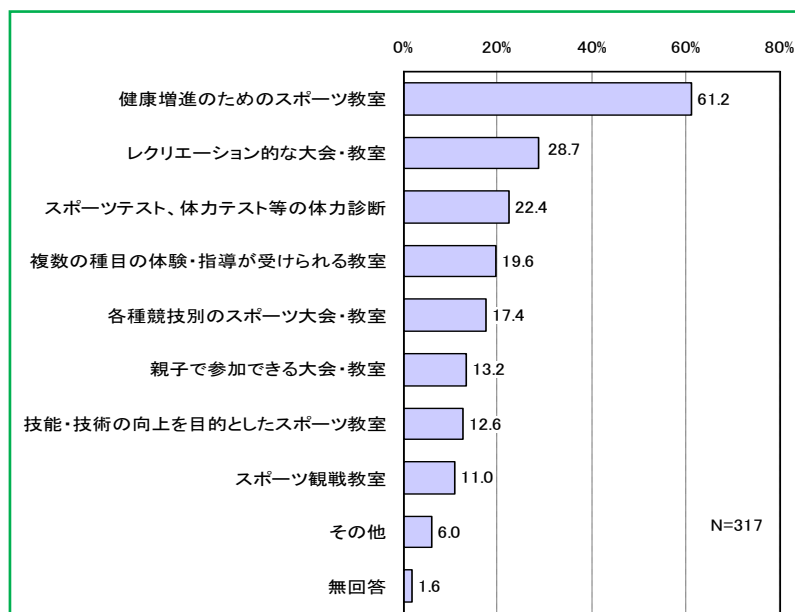
今後してみたい運動・スポーツを教えてください。（答は2つまで）



また、現在運動・スポーツを実施している人が、今後してみたい種目としては、「ヨガ」が10.4%で最も多く、「ウォーキング」が10.2%で続いており、ここでも軽スポーツへの志向がうかがえます。〈スポーツアンケート〉

・実施してほしい大会、教室はありますかという問いに対して、30.8%が「ある」と回答し、その内容については、「健康増進のためのスポーツ教室」が61.2%と最も多く、「レクリエーション的な大会・教室」が28.7%で続いています。(スポーツアンケート)

問. (実施してほしい大会、教室があると答えた人に) その内容を教えてください。(答は3つまで)



・スポーツ団体の代表者 177 人に対して行ったアンケートでは 110 人の回答があり、活動目的としては「健康・体力づくり」が 36.8%で最も多く、次いで「仲間との親睦」が 25.4%となっています。

・平成 22 年度から市を挙げてラジオ体操の推進に取り組んでおり、地域や事業所で日常的に実施されているほか、「市民一斉ラジオ体操の日」や「ラジオ体操講習会」に、たくさんの方が参加しています。

【課題】

- ・健康づくり・体力づくり志向の高まりに応えること。
- ・働き盛りの世代の運動実施率を上げること。

(2) 子どものスポーツ機会の充実

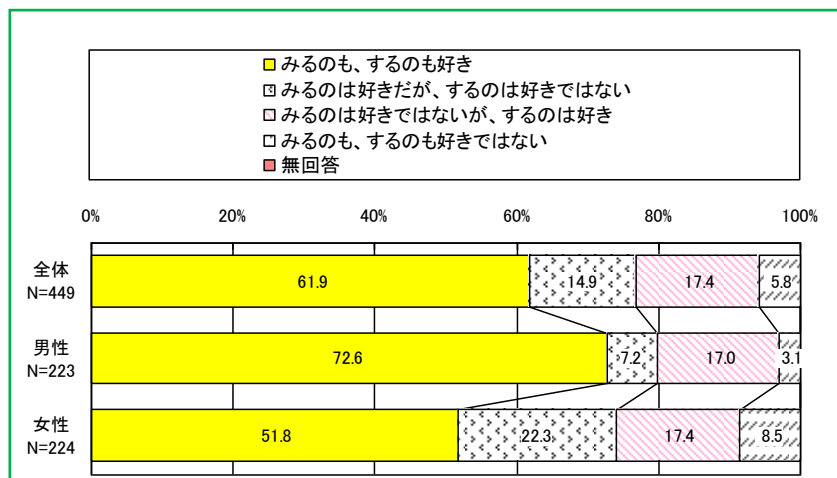
【現状】

小学生

●60%強が「みるのも、するのも好き」。30%強は週に3日以上運動。頻度は男子の方が高い

・小学生では、スポーツを「みるのも、するのも好き」と回答した人が全体の61.9%、「みるのも、するのも好きではない」と答えた人は5.8%となっています。「みるのも、するのも好き」と答えた人は、男子が72.6%、女子が51.8%となっています。(スポーツアンケート)

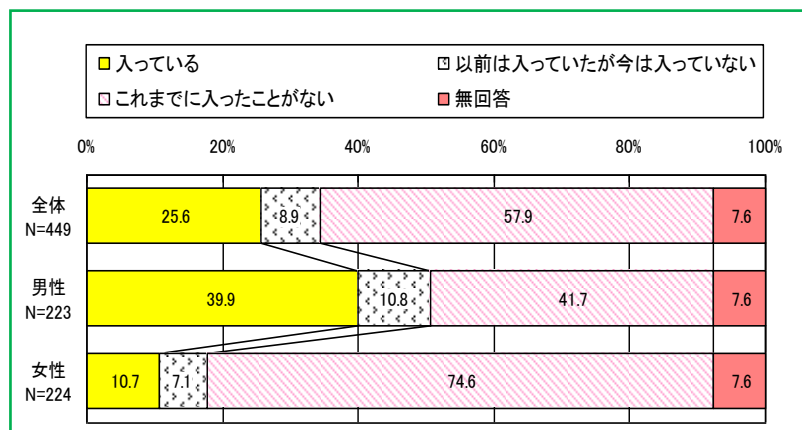
問. スポーツが好きですか。(答は1つだけ)



・小学生の57.2%は週に1日以上、33.9%は週に3日以上、学校の授業以外でスポーツをしています。男女別にみると、男子の方がスポーツをする頻度が高くなっています。(スポーツアンケート)

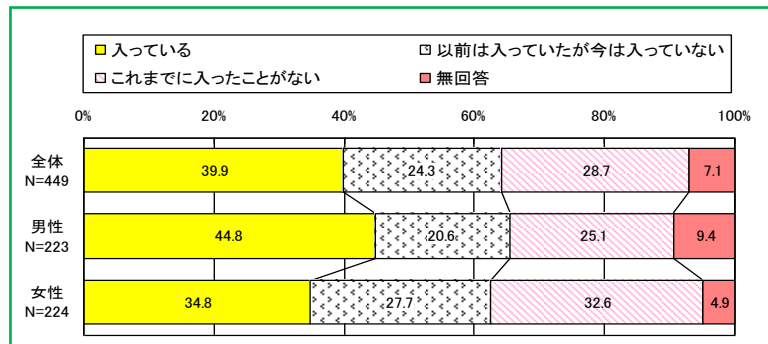
・小学生の、学校の運動場や体育館で活動するスポーツ少年団やクラブチームに入っている人の割合は全体の25.6%ですが、男女別にみると、男子39.9%、女子10.7%と、30ポイント近い差がついています。(スポーツアンケート)

問. 学校の体育館や運動場で活動するスポーツ少年団やクラブチームに入っていますか。(答は1つだけ)



・小学生の、学校以外で活動するスポーツクラブに入っている人の割合は全体で 39.9%で、男子は 44.8%、女子は 34.8%となっています。〈スポーツアンケート〉

問. 学校以外の場所で活動するスポーツクラブに入っていますか。(答は1つだけ)

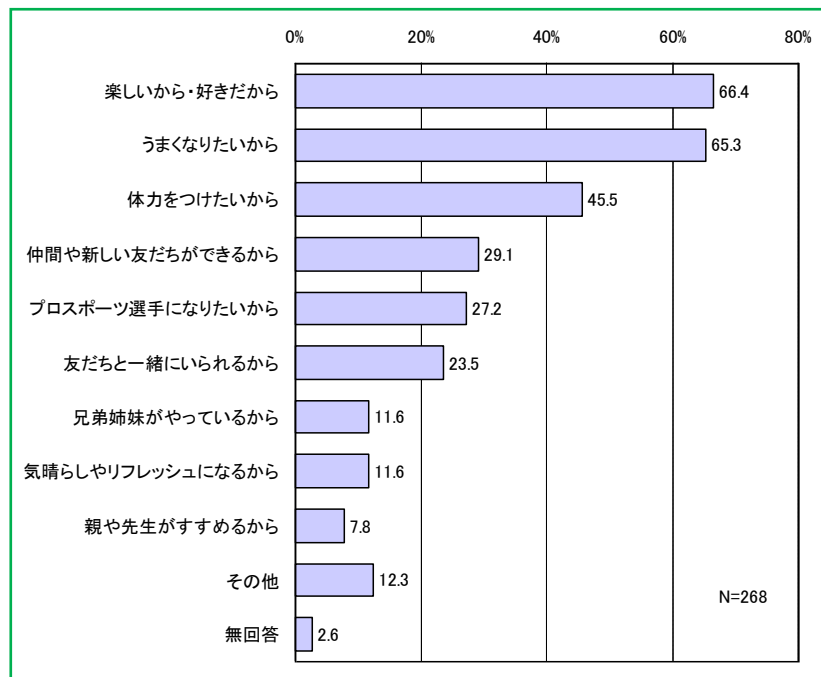


● 「楽しいから、好きだから、うまくなりたいから」スポーツをする

・小学生に対する「いつまでスポーツを続けたいと思いますか」という質問に対しては、「大人になっても続けたい」が 34.7%と最も多く、「中学校まで」が 23.9%、「高校まで」が 13.8%となっています。〈スポーツアンケート〉

・小学生がスポーツをする理由は「楽しいから、好きだから」が 66.4%で最も多く、「うまくなりたいから」が 65.3%、「体力をつけたいから」が 45.5%となっています。〈スポーツアンケート〉

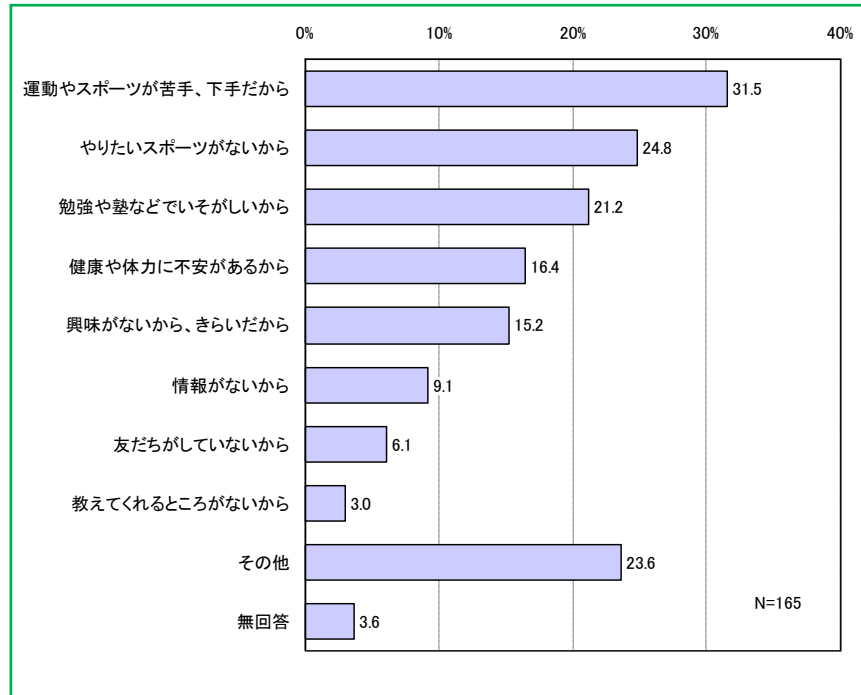
問. (スポーツを教えてくれるスポーツ少年団やスポーツクラブに入っていると答えた人に) スポーツをしている理由は何ですか。(答はいくつでも)



● 「苦手だから」スポーツをしない

・授業以外でスポーツをしない小学生に理由を質問したところ、「運動やスポーツが苦手だから」が 31.5%で最も多く、「やりたいスポーツがないから」が 24.8%、「勉強や塾で忙しいから」が 21.2%となっています。〈スポーツアンケート〉

問. (スポーツを教えてくれるスポーツ少年団やスポーツクラブに入っていないと答えた人に) スポーツをしないのはなぜですか。(答はいくつでも)



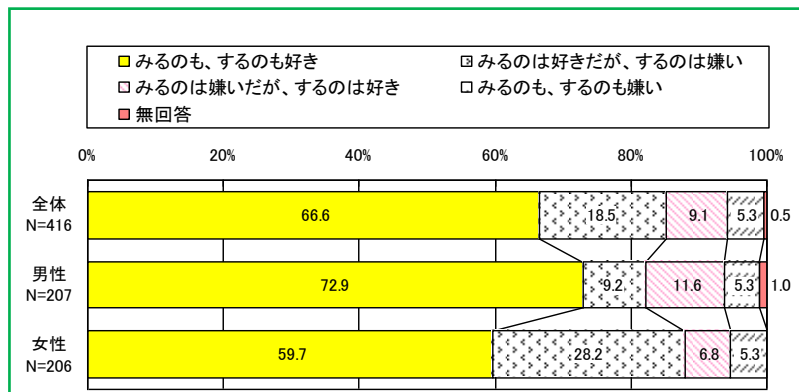
・全国統一で実施される「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果(平成25~27年度平均)によると、体力合計点では、筑後市の小学生(5年生)は全国平均を上回っています。(男子全国比102、女子103)

中学生

●70%弱が「みるのも、するの好き」、女子では「するのは嫌い」が3分の1

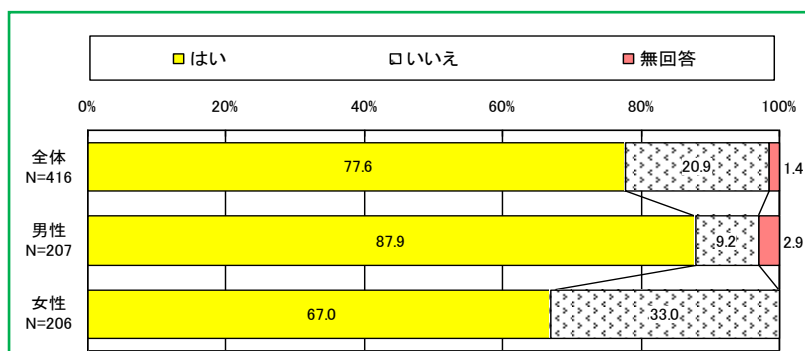
・中学生では、スポーツを「みるのも、するの好き」と回答した人が全体の66.6%、「みるのも、するの好きではない」と答えた人は5.3%です。「みるのも、するの好き」と答えた人は、男子が72.9%、女子が59.7%です。(スポーツアンケート)

問. スポーツが好きですか。(答は1つだけ)



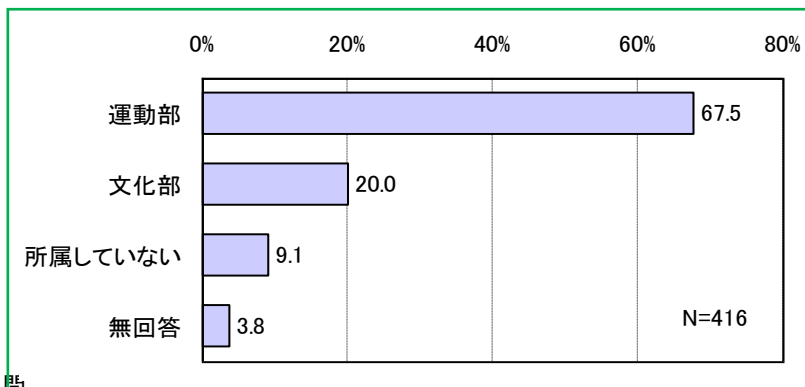
・中学生のうち 77.6%は、体育の授業以外に運動やスポーツをしています。男女別では、男子は 90%近くに達しています。〈スポーツアンケート〉

問. 体育の授業以外に運動やスポーツをしますか。(答は 1 つだけ)

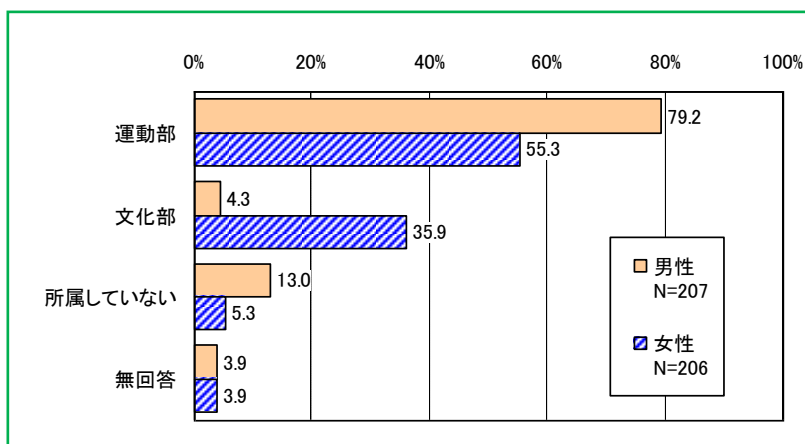


・中学生の、運動部に入っている人の割合は全体で 67.5%となっています。男女別では、男子が 79.2%、女子が 55.3%です。〈スポーツアンケート〉

問. 学校の部活動に所属していますか。(答は 1 つだけ)



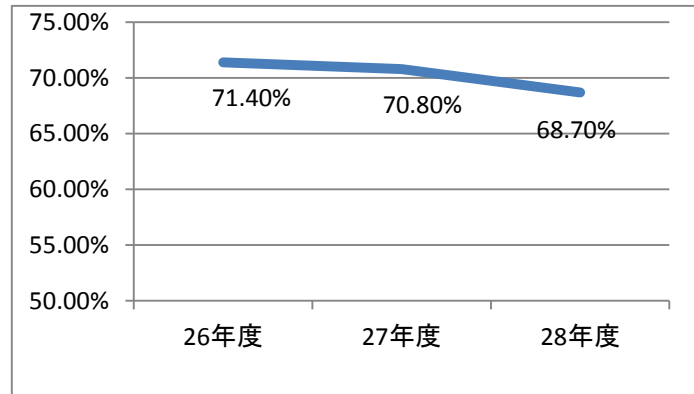
問. 学校の部活動に所属していますか。(答は 1 つだけ) 男女別



・中学生の 74.3%は週に 1 日以上、68.5%は週に 3 日以上、54.8%はほぼ毎日、学校の授業以外で運動・スポーツをしています。〈スポーツアンケート〉

・中学校の運動部活動は、校外の体育活動加入や専門性を持った指導者の不足等により、学校部活動加入率の減少が見られると同時に、活発な部と衰退する部の差が顕著になっています。

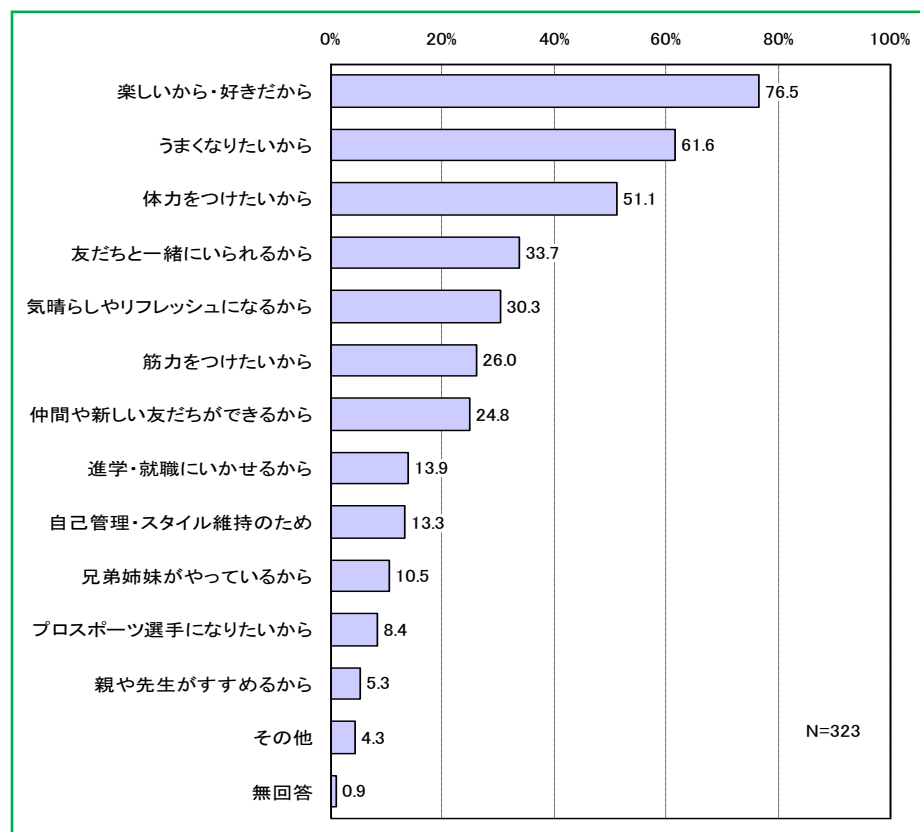
市内3中学校の運動部活動加入率の推移



●「楽しいから、好きだから、うまくなりたいから」スポーツをする

・中学生がスポーツをする理由は「楽しいから、好きだから」が76.5%で最も多く、「うまくなりたいから」が61.6%、「体力をつけたいから」が51.1%となっています。(スポーツアンケート)

問. (体育の授業以外で運動やスポーツをすると答えた人に) 運動やスポーツをしている理由は何ですか。(答はいくつでも)



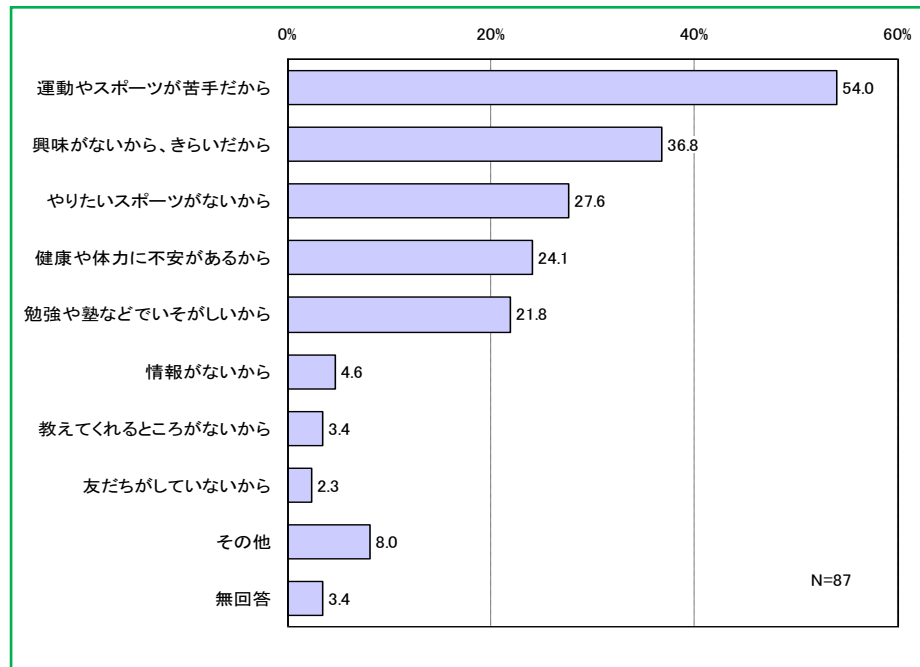
・中学生に対する「いつまでスポーツを続けたいと思いますか」という質問に対しては、「高校まで」が37.2%で最も多く、次いで「大人になっても続けたい」が32.5%で続いており、小学生に比べると、継続希望期間が長くなっています。(スポーツアンケート)

●「苦手だから」スポーツをしない

・授業以外でスポーツをしない中学生に理由を質問したところ、「運動やスポーツが苦手だから」が54.0%で最も多く、「興味がないから、きらいだから」が36.8%、「やりたいスポーツがないから」が27.6%となっています。(スポーツアンケート)

・運動部に入っていない中学生に理由を聞いたところ、「運動部以外にやりたいことがあるから」と「スポーツが苦手だから」が38.8%、「練習がきついから」が27.3%となっています。(スポーツアンケート)

問. (体育の授業以外で運動やスポーツをしないと答えた人に) 運動やスポーツをしないのはなぜですか。(答はいくつでも)



●進む二極化

・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果(平成25~27年度平均)によると、体力合計点では、筑後市の中学生(2年生)は全国平均とほぼ同じ(男子99、女子100)になっています。

また、27年度調査の福岡県全体では、中学生の男女ともに、「体育授業以外の1週間の総運動時間の分布(60分刻み)」の中で「60分未満」が一番多く(男子7.8%、女子23.6%)、その中でも「0分」が約70%を占め、運動・スポーツをする人とならない人の二極化が進んでいる傾向が見られます。

【課題】

- ・運動やスポーツを「する人」と「しない人」の二極化が進む状況を改善すること。
- ・運動やスポーツに苦手意識がある子にも、体を動かす習慣をつけてもらうこと。

(3) 競技スポーツの推進

【現状】

●競技者人口は伸び悩み

・「競技スポーツ」と、健康維持や体力向上等のための「運動」のうち、「競技スポーツ」を行っている人は、「月に1日以上運動・スポーツを行った」人の約3人に1人となっています。〈スポーツアンケート〉

・筑後市体育協会には、17 競技・団体、1,660 人が加入し、競技力向上等を目指して活動していますが、新規加入は少ない状況です。

・スポーツ団体の代表者 177 人に対して行ったアンケートでは、会員数は「変わらない」と「減っている」を合わせると 86.4%、団体の問題点としては「新規加入が少ない」という回答が 46.0%で最も多くなっています。

また、「力を入れてほしい施策」では、「スポーツ団体への活動支援」が 20.2%で最も多くなっています。

・県民体育大会には毎年、夏季大会（水泳）、秋季大会、市町村対抗駅伝に参加し、上位入賞者を輩出しています。平成 27 年度の順位は、秋季大会が 39 郡市中 19 位（26 年度 23 位）、駅伝が 60 市町中 29 位（26 年度 59 市町中 29 位）となっています。

【課題】

・競技スポーツを新しく始める人が少なく、競技者数が減少傾向にある状況を改善すること。

・現在、体育協会に加入していない団体競技や、団体を必要としない個人競技者の発掘と支援を行うこと。

2 みるスポーツ

(1) トップスポーツをみる機会の充実、トップアスリートと触れ合う機会の充実 【現状】

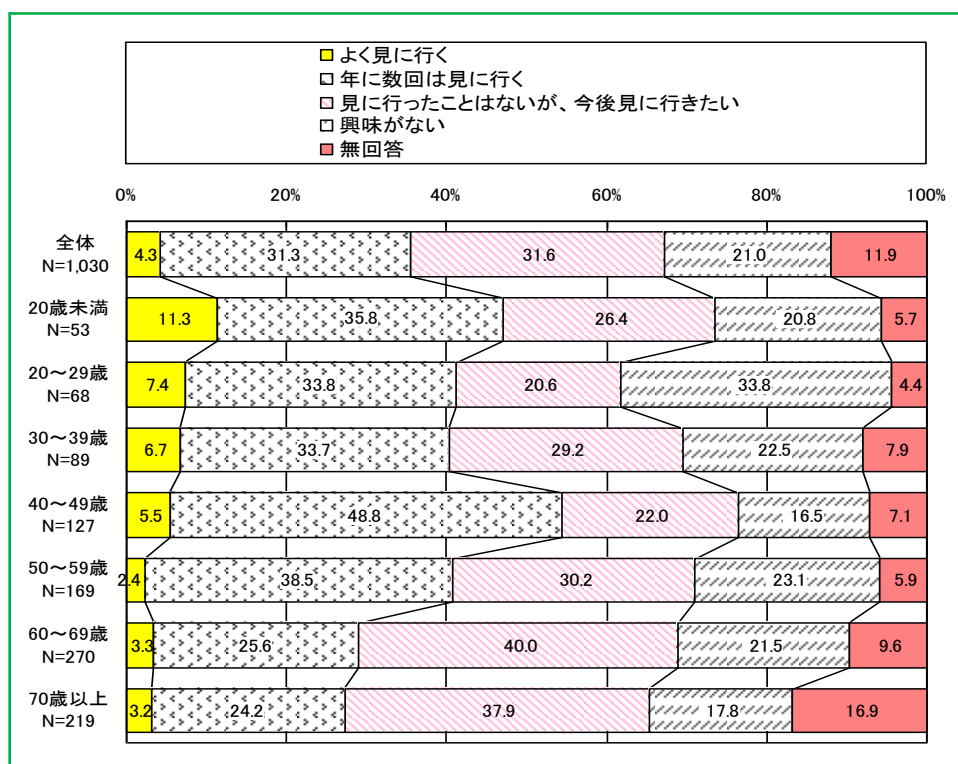
●みるのが好きな人が8割以上

・スポーツを「みるのも、するのでも好き」と回答した人が全体の51.0%、「みるのは好き」な人は34.7%で、合わせると「みるのが好き」と回答した人は85.7%となっています。

〈スポーツアンケート〉（グラフは6ページを参照）

・「あなたは、直接競技会場に行ってスポーツを見ますか」という問いに対して、4.3%が「よく見に行く」、31.3%が「年に数回は見に行く」、31.6%が「見に行ったことはないが、今後見に行きたい」、21.0%が「興味がない」、11.9%が「無回答」と答えました。〈スポーツアンケート〉

問. 直接競技会場に行ってスポーツを見ますか。(答は1つだけ)

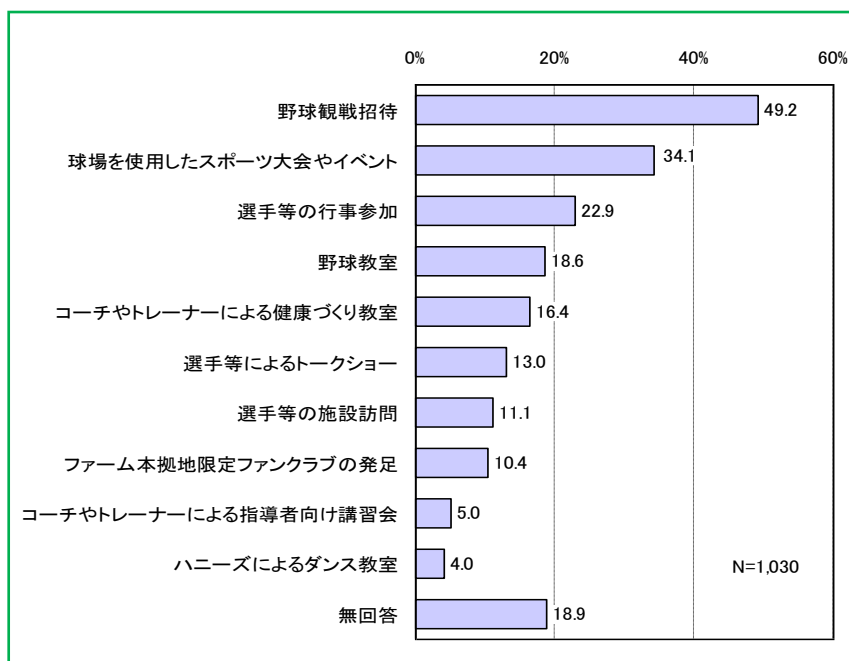


●HAWKS ベースボールパーク筑後開業で高まる観戦意欲

・トップスポーツをみる機会が少ないことは、本市に限らず地方都市の課題ですが、3月に開業した「HAWKS ベースボールパーク筑後」は、スポーツをみる場、ひいてはスポーツに触れる絶好の入り口を本市に提供してくれました。これを契機に、「みるスポーツ」の拡充を図る必要があります。

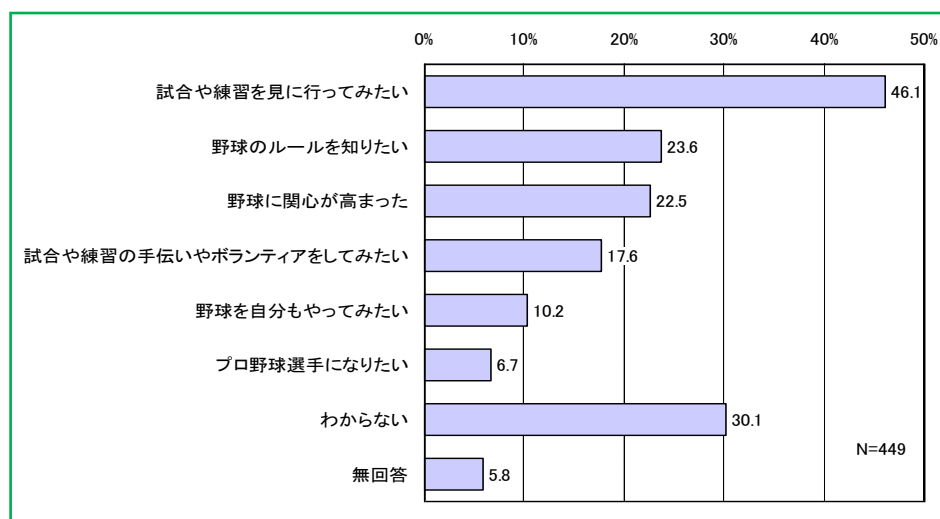
・福岡ソフトバンクホークスと連携して取り組んでほしい事業としては、「野球観戦招待」が49.2%と最も多く、「球場を使用したスポーツ大会やイベント」が34.1%、「選手等の行事参加」が22.9%となっており、ほとんどの年齢層で同じ順位となっています。〈スポーツアンケート〉

問. 市と球団が連携して、どのような事業に取り組んでほしいと思いますか。(答は3つまで)



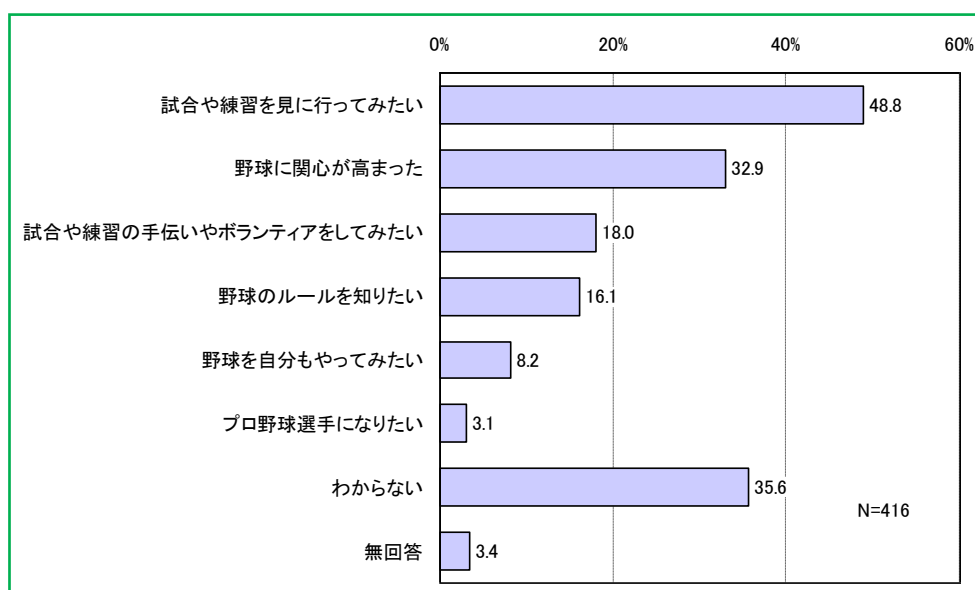
・小学生の「福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地開業を控えた気持ち」は「練習や試合を見に行ってみよう」が46.1%で最も多く、「野球のルールを知りたい」が23.6%、「野球に関心が高まった」が22.5%と続いています。(スポーツアンケート)

問. ソフトバンクホークスファーム本拠地開業を控えた気持ち。(答はいくつでも)



・中学生の「福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地開業を控えた気持ち」は「練習や試合を見に行ってみよう」が48.8%で最も多く、「野球に関心が高まった」が32.9%、「試合や練習の手伝いやボランティアをしてみよう」が18.0%と続いています。(スポーツアンケート)

問. ソフトバンクホークスファーム本拠地開業を控えた気持ち。(答はいくつでも)



・「HAWKS ベースボールパーク筑後」のメイン球場「タマホームスタジアム筑後」(定員 3,113 人)では、2・3 軍戦が年間約 70 試合行われます。開業初年度の 28 年度は、2 軍戦の 1 試合平均入場者数は 2,121 人で、土日曜日は満員になることも多く、プロ野球選手のプレーを身近に楽しむ機会が増えました。

・県内をみると、野球やサッカー、バスケットボールのプロチームのほか、ラグビーや陸上競技など、国内トップレベルのチームが複数あり、本市の交通の利便性を考えると、少し足を延ばせば、トップスポーツに触れる機会をつくることは十分可能です。

【課題】

・20%強の人が、スポーツをみることに「興味がない」と答えている状況を改善すること。

3 支えるスポーツ・交わるスポーツ

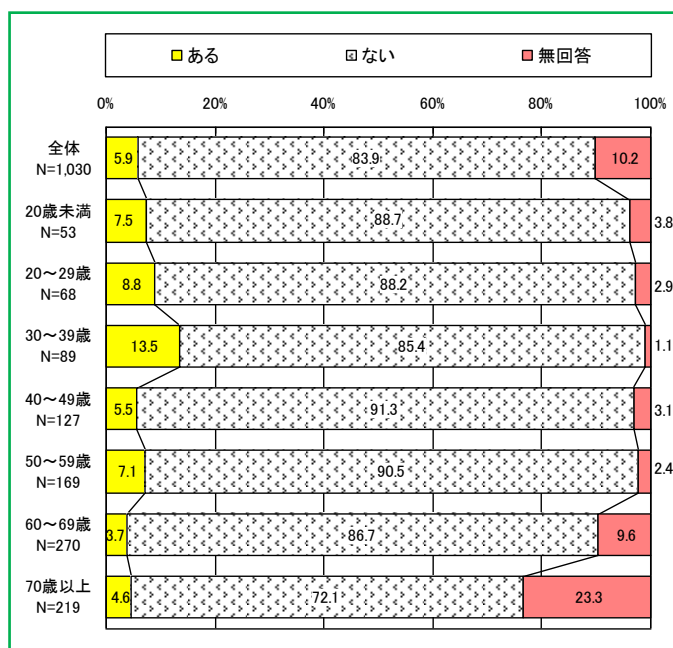
(1) スポーツボランティアの育成・充実

【現状】

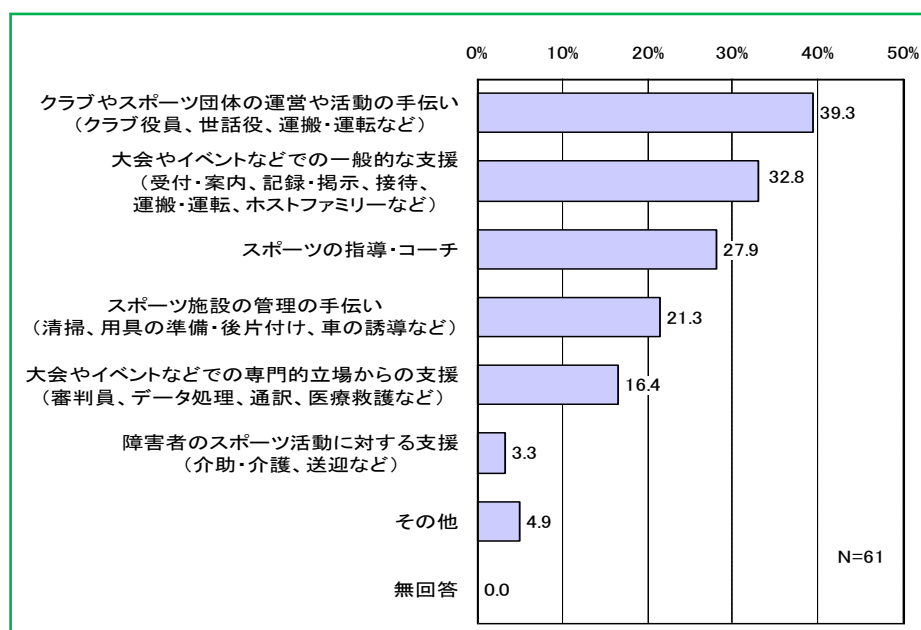
●経験者は少ないが、潜在的な参加意向あり

・この1年間のスポーツボランティア活動の有無については、「ある」と答えた人は5.9%にとどまっています。「ある」と答えた人の活動内容については、「クラブや団体の運営や活動の手伝い（役員、世話役、運転等）」が39.3%、「大会やイベントなどでの支援（受付、記録、接待、運転等）」が32.8%、「スポーツの指導・コーチ」が27.9%となっています。（スポーツアンケート）

問. この1年間に、スポーツボランティア活動を行ったことがありますか。（答は1つだけ）

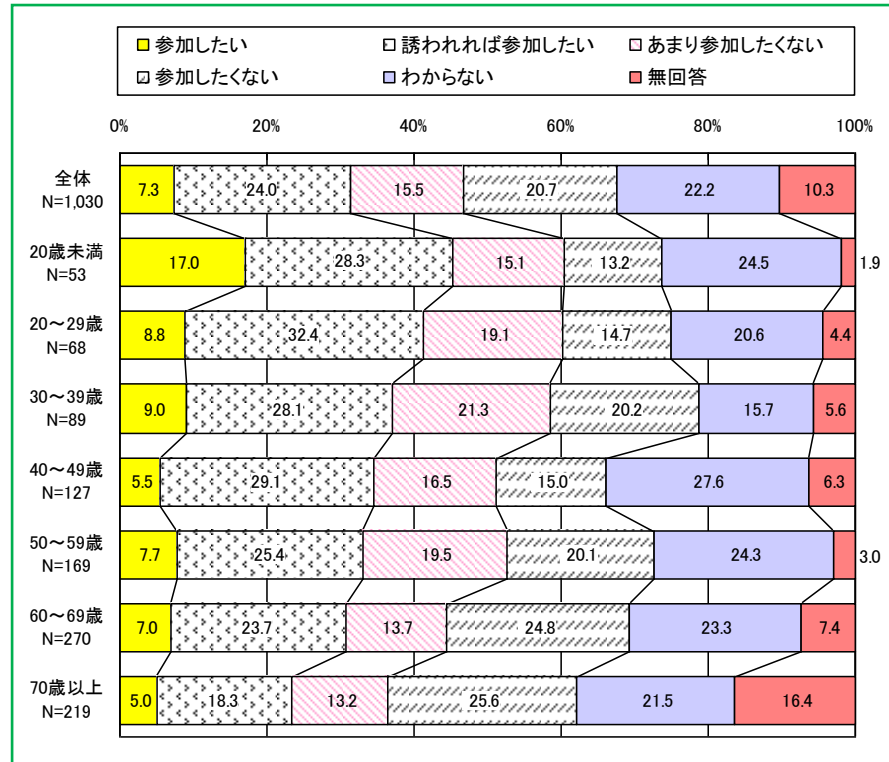


問. (ボランティア活動を行った人に) どのような活動をしましたか (答はいくつでも)



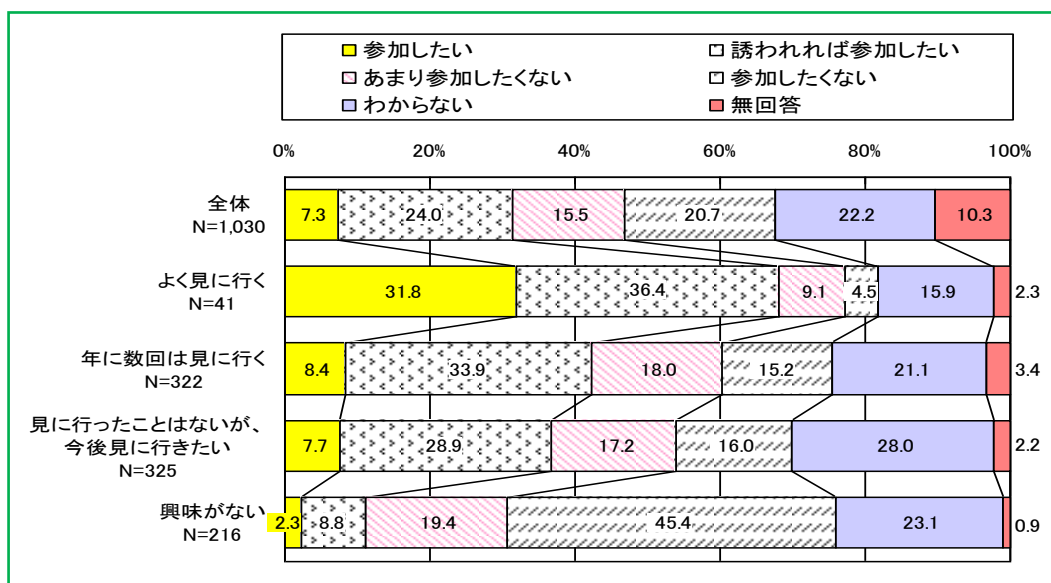
・スポーツの指導やイベント開催時に、機会があればボランティアとして参加したいと思いますかという問いに対しては、「参加したい」が7.3%、「誘われれば参加したい」が24.0%、合せて31.3%です。(スポーツアンケート)

問. 機会があればスポーツボランティアとして参加したいと思いますか。(答は1つだけ)



・スポーツを見に行く頻度とボランティア参加意向との相関関係を見ると、見に行く頻度が高い人の方が、ボランティアに「参加したい」、「誘われれば参加したい」という回答割合が高くなっています。

問. 機会があればスポーツボランティアとして参加したいと思いますか。(答は1つだけ)



・子どものスポーツ団体の指導者 33 人を対象に実施したアンケートでは 28 人の回答があり、健全育成や礼儀作法、スポーツの楽しさを教えることを重視して、社会的使命（地域のために、子どものために）を持って指導している人が多数を占め、市に対しては、「スポーツ団体への活動支援」を望む意見が最も多くなっています。

【課題】

- ・スポーツボランティア経験のある人が、6%弱にとどまっている状況を改善すること。
- ・年齢が高くなるにつれて、ボランティアへの参加意向が低くなる傾向を改善すること。

(2) 運動・スポーツを通じたコミュニティ活動の活性化

【現状】

●スポーツを通じた様々な地域活動

- ・市が委嘱したスポーツ推進委員 20 人が全小学校区（11 校区）に配置され、スポーツ事業の実施に係る連絡調整や、住民に対する実技指導、その他スポーツに関する指導・助言を行っています。
- ・筑后市体育協会には、17 競技・団体、1,660 人が加入し、地域等を基盤とするスポーツ活動をしています。新規加入は少ない状況です。
- ・地域でラジオ体操を継続的に実施している団体が 62 あり、「ラジオ体操推進会議」を開催して情報交換を行い、ラジオ体操実施地域の拡大を図っています。
- ・市の高齢化率は 25.8%ですが、35%を超えている地区も複数あります。〈住民基本台帳〉

【課題】

- ・ライフスタイルの都市化が進み、地域の行事やグループへの参加が少なくなってきた状況を改善すること。

4 スポーツ活動推進のための環境づくり

(1) 身近なスポーツ活動の場の確保

【現状】

●体育施設利用件数は横ばい

・平成 27 年度に水田コミュニティセンター、窓ヶ原体育館、市民の森テニスコート、市内小中学校開放といった市の施設を利用している人数はのべ 89,735 人で、この数年間横ばいの状態です。

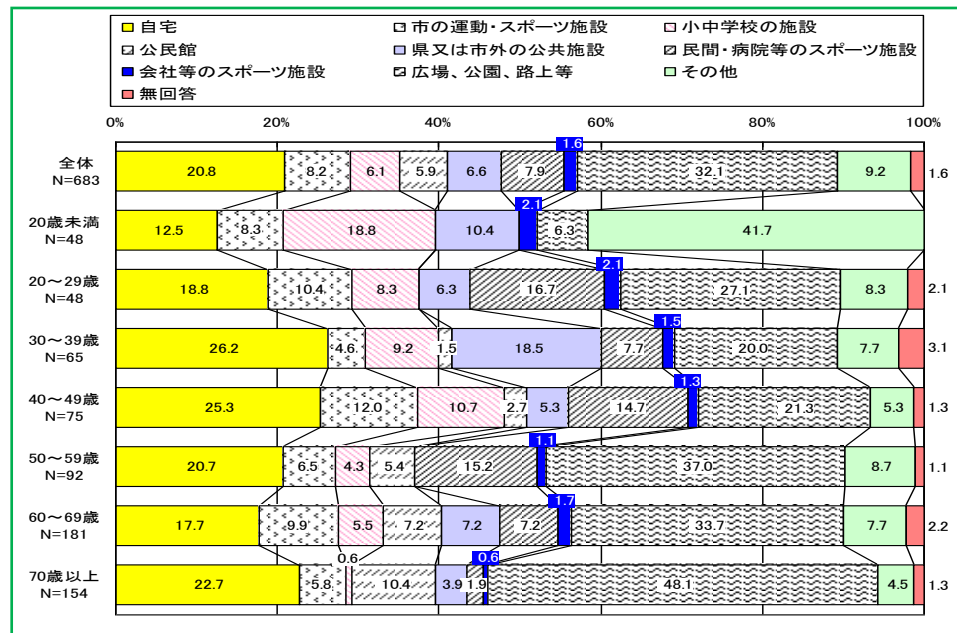
なお、市内には、前記の施設のほか、体育館やテニスコート、多目的運動場等を備えた県営筑後広域公園があり、平成 27 年度はのべ 129,895 人が利用しました。市内の公共施設を利用してスポーツをした人数の計は、のべ 219,630 人になります。

・小中学校開放とは、運動場や体育館を、学校教育に支障のない範囲で市民が利用する制度です。市内の全小中学校（14 校）で実施しており、現在小学生から大人まで 108 団体が利用しています。

・市内の高校等（八女工業高校、八女高校、筑後特別支援学校）でも学校施設開放が行われており、現在 2 団体が定期的に利用しています。

・運動・スポーツをする場所については、「市の施設」は 8.2%、「小中学校の施設」6.1%、「県または市外の公共施設」6.6%、「公民館」5.9%で、「広場、公園、路上等」が 32.1%、「自宅」が 20.8%と多くなっています。（スポーツアンケート）

問.（「月に 1 日以上行った」「あまり行かなかった」と答えた人に）運動・スポーツは主にどのような場所で行いましたか。（答は 1 つだけ）



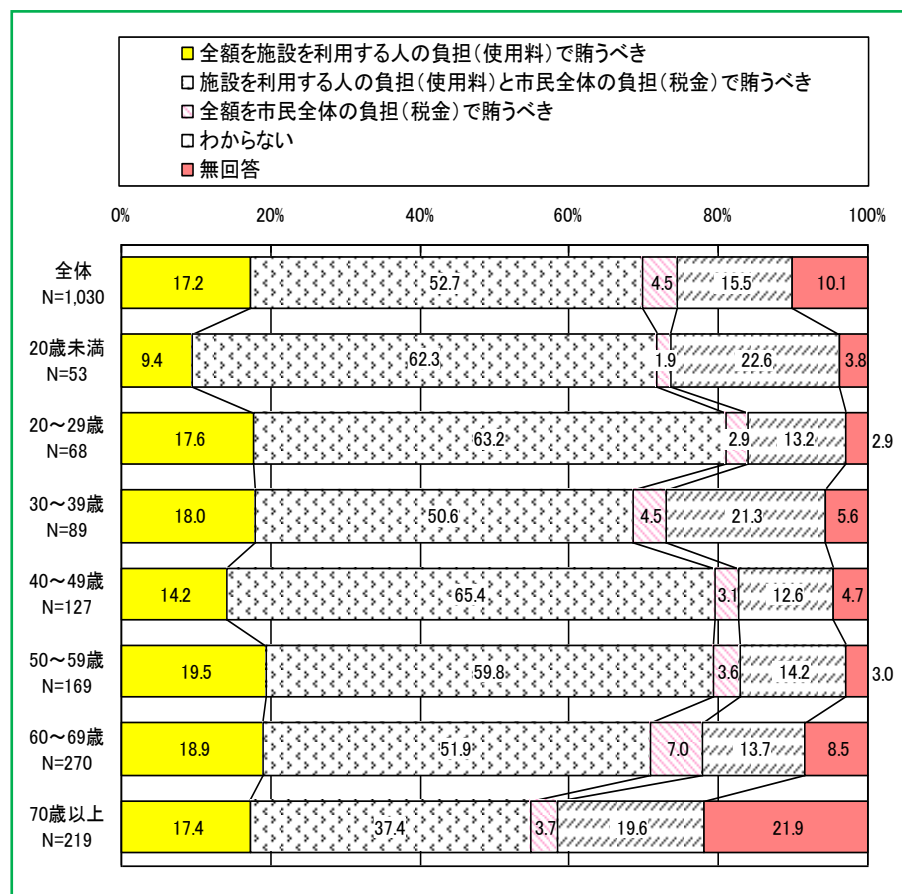
●施設の維持管理には経費がかかる

・北部地域交流センター（仮称）の交流棟にはトレーニングや軽運動ができる部屋が、多目的広場にはサッカーやソフトボールに対応できるグラウンドが、更にはウォーキングができる園路等が整備される予定で、運動・スポーツ、更には地域交流の拠点としての役割が期待されます。

・窓ヶ原体育館や水田コミュニティセンター等、市の体育施設は設置後約40年が経過し、老朽化が進んでいます。施設の現状を的確に把握し、長寿命化を図る必要があると判断した施設については、計画的な維持管理・補修を行っていく必要があります。

・公共施設の維持管理や運営にかかる経費の負担に関する質問には「利用する人の負担（使用料）と市民全体の負担（税金）で賄うべき」と答えた人が52.7%、「全額を利用する人の負担（使用料）で賄うべき」と答えた人が17.2%となっています。「全額を市民全体の負担（税金）で賄うべき」と答えた人は4.5%です。〈スポーツアンケート〉

問. 公共施設の維持管理や運営経費は、何によって賄われるべきだと思いますか。（答は1つだけ）



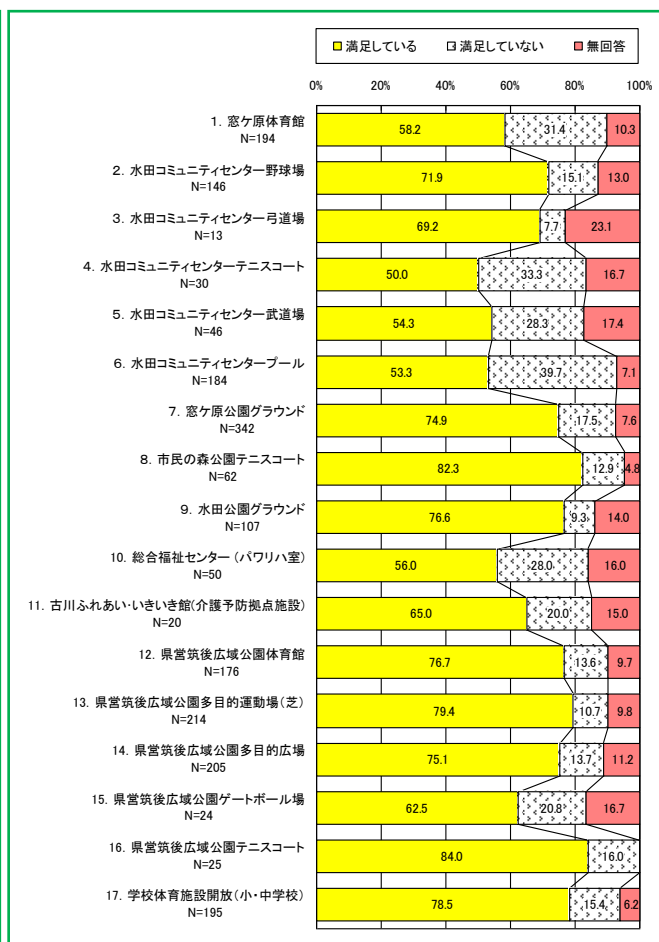
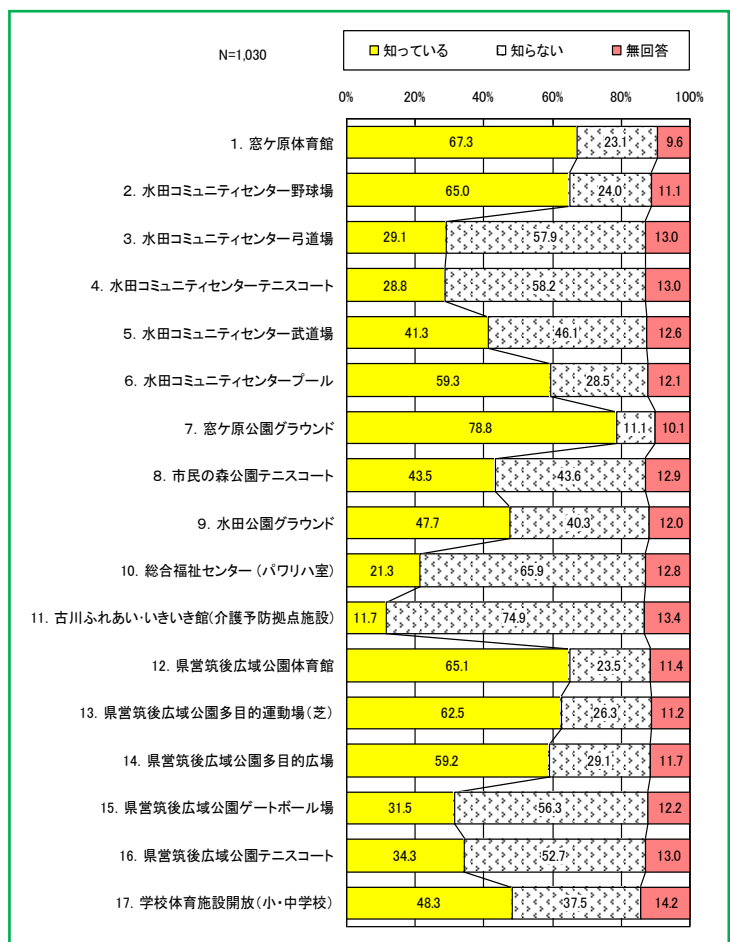
・利用者が快適にスポーツ活動を行っていくためには、施設の機能を一定のレベルに保ち続ける必要があります。そのためには経費がかかります。現在の照明使用料のみの徴収では十分に対応できていないのが実情であり、今後、施設使用料を視野に入れた検討が必要です。

●公共のスポーツ施設を知らない人が多い

・市の施設や小中学校開放、県の施設を知っている人の割合は、施設毎に概ね20%から80%で、施設が広く知られているとは言えない状況です。一方、利用したことがある人の満足度は概ね50%から80%で、市民の森テニスコートと筑後広域公園テニスコートは80%を超えています。〈スポーツアンケート〉

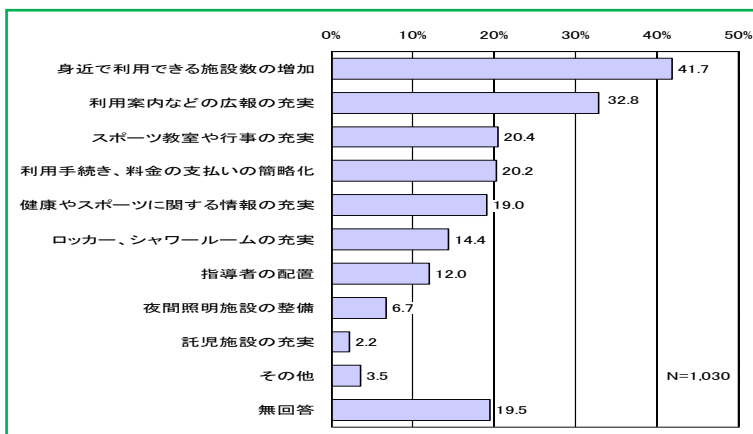
問. つぎの施設を知っていますか。

問. (利用したことがある人に) 満足していますか。



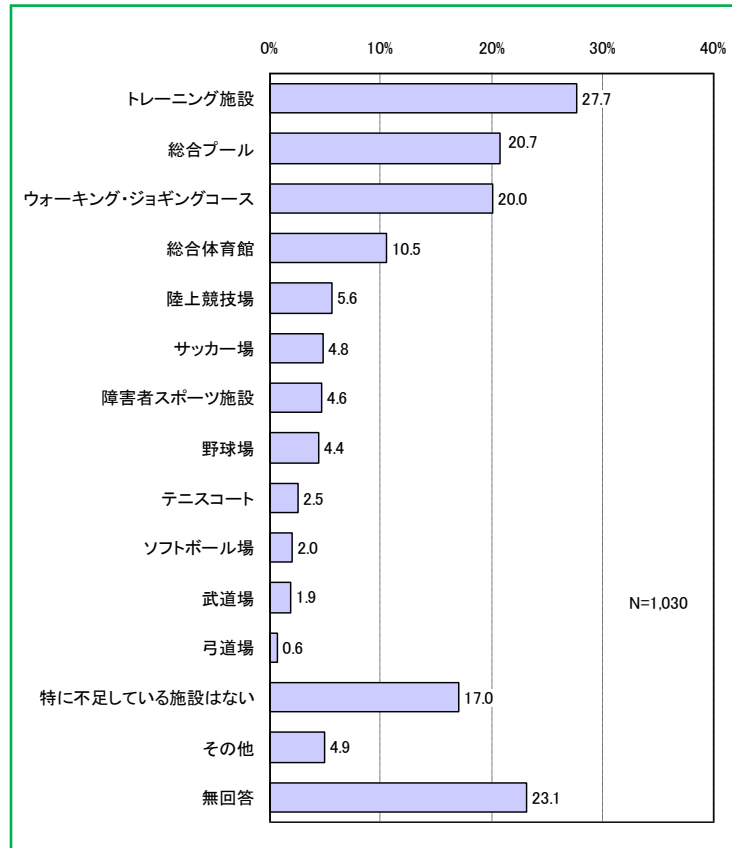
・公共スポーツ関連施設に望むことについては、「身近で利用できる施設数の増加」が41.7%、「利用案内などの広報の充実」32.8%、「スポーツ教室や行事の充実」20.4%となっています。(スポーツアンケート)

問. 市内にある公共スポーツ関連施設に望むことは何ですか。(答は3つまで)



・不足している公共スポーツ関連施設については、「トレーニング施設」27.7%、「総合プール」20.7%、「ウォーキング・ジョギングコース」20.0%となっています。(スポーツアンケート)

問. 市内にある公共スポーツ関連施設で不足している施設は何ですか。



【課題】

- ・公共のスポーツ施設を知らない人が多い状況を改善すること。
- ・老朽化が進んでいる施設への対応が必要なこと。

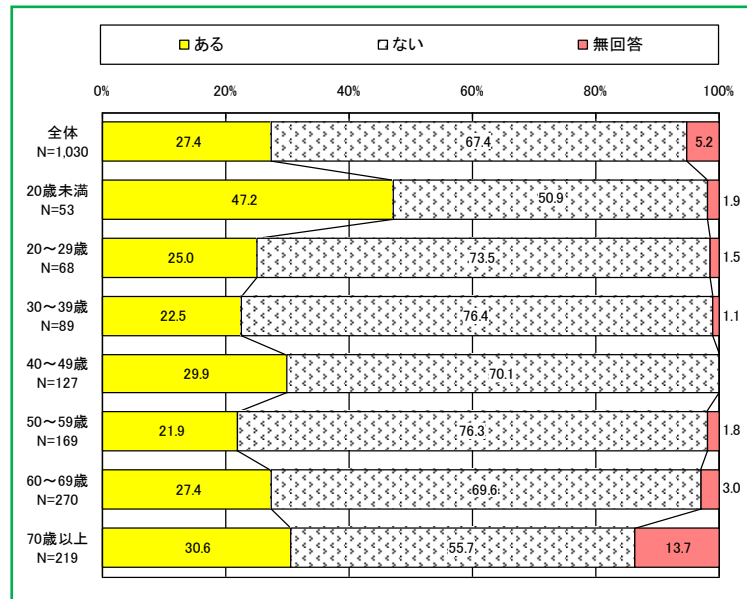
(2) スポーツに触れる機会の確保

【現状】

●市が行うスポーツ事業に参加したことがある人は30%弱

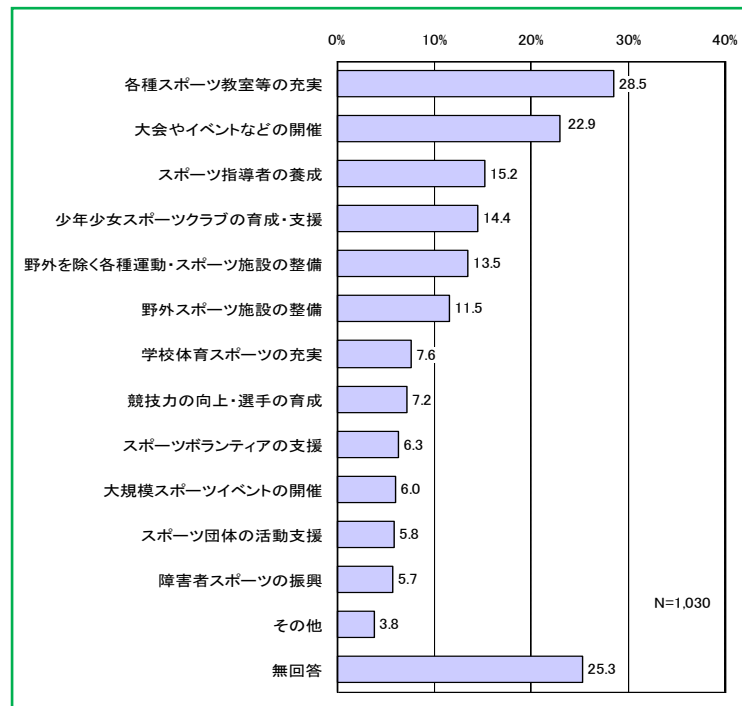
・市が行うスポーツ大会や教室に参加したことがありますかという問いに対して、「ある」と答えた人は27.4%、「ない」と答えた人は67.4%で、20歳未満では「ある」と答えた人が47.2%と高くなっていますが、それ以外の年齢層では全体集計とほぼ同じ結果です。
 〈スポーツアンケート〉

問. 市が行うスポーツ大会や教室に参加したことがありますか。



・力を入れてほしいスポーツ普及・振興策としては「各種スポーツ教室等の充実」が28.5%、「大会やイベントなどの開催」が22.9%となっています。
 〈スポーツアンケート〉

問. スポーツの普及・振興のため、今後、市にどのようなことに力を入れてほしいと思いますか。



・実施してほしい大会、教室はありますかという問いに対して、30.8%が「ある」と回答し、その内容については、「健康増進のためのスポーツ教室」が61.2%と最も多く、「レクリエーション的な大会・教室」が28.7%で続いています。(グラフは11ページを参照)

年齢階層別にみると、20歳未満を除く全ての年齢層で、「健康増進のためのスポーツ教室」が最も高くなっています。

〈スポーツアンケート〉

問. (実施してほしい大会、教室があると答えた人に) その内容を教えてください。(答は3つまで)

年齢階層別

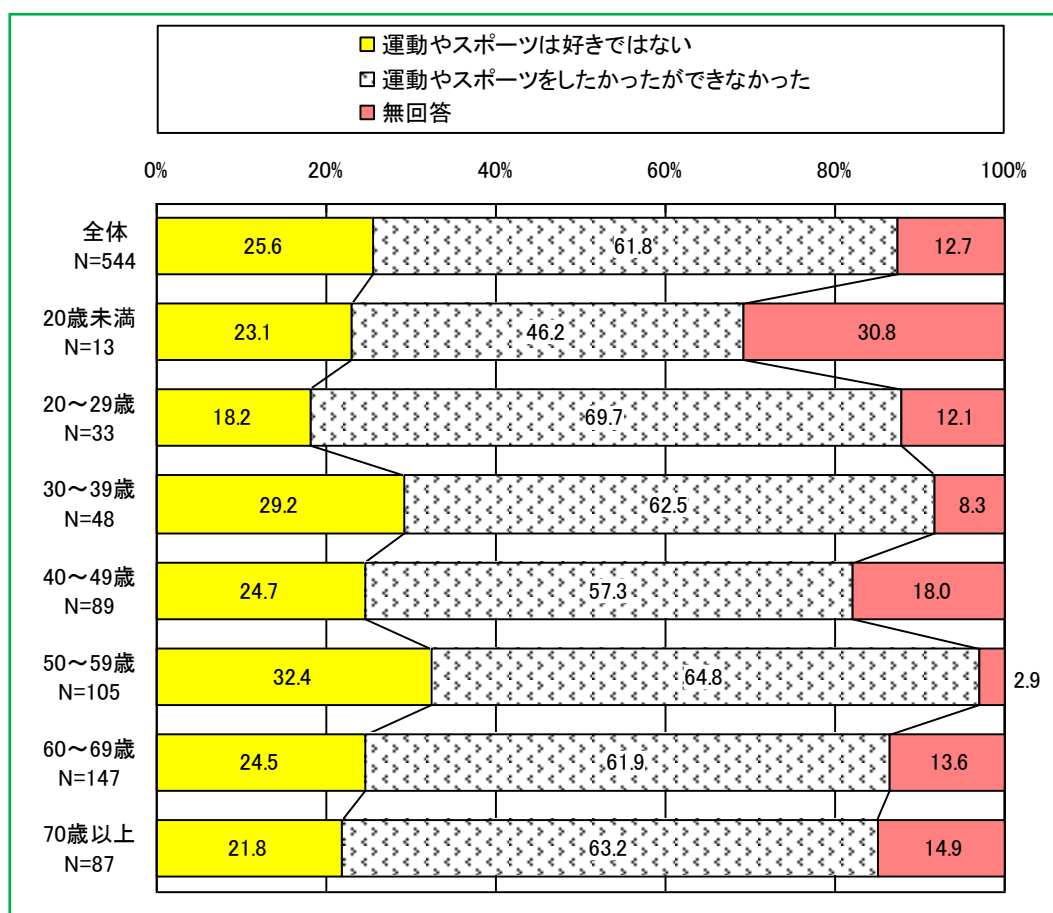
	(単位:%)									
	実施してほしい大会、教室の内容									
	健康増進のためのスポーツ教室	レクリエーション的な大会・教室	スポーツテスト、体力テスト等の体力診断	複数の種目の体験・指導が受けられる教室	各種競技別のスポーツ大会・教室	親子で参加できる大会・教室	技能・技術の向上を目的としたスポーツ教室	スポーツ観戦教室	その他	無回答
20歳未満 N=15	13.3	13.3	26.7	6.7	53.3	13.3	40.0	26.7	6.7	0.0
20～29歳 N=18	38.9	11.1	27.8	27.8	38.9	16.7	16.7	5.6	0.0	0.0
30～39歳 N=43	34.9	9.3	25.6	25.6	34.9	34.9	23.3	11.6	9.3	0.0
40～49歳 N=43	62.8	18.6	11.6	37.2	11.6	18.6	20.9	2.3	4.7	2.3
50～59歳 N=64	70.3	31.3	20.3	12.5	6.3	7.8	9.4	10.9	9.4	1.6
60～69歳 N=77	71.4	41.6	18.2	15.6	11.7	7.8	2.6	13.0	6.5	2.6
70歳以上 N=49	77.6	38.8	32.7	14.3	12.2	6.1	8.2	14.3	2.0	2.0

・福岡ソフトバンクホークスと連携して取り組んでほしい事業としては、「野球観戦招待」が49.2%と最も多く、「球場を使用したスポーツ大会やイベント」が34.1%、「選手等の行事参加」が22.9%となっており、ほとんどの年齢層で同じ順位となっています。〈スポーツアンケート〉（グラフは22ページを参照）

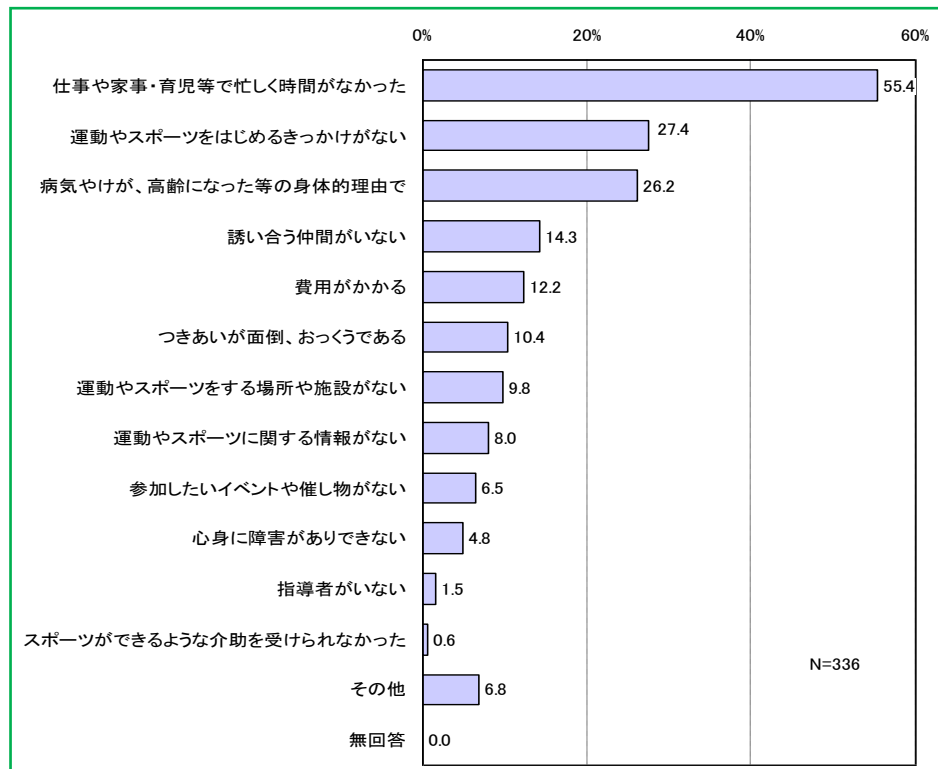
●運動・スポーツを「今後してみたい」と考える「働く世代」に、始めるきっかけを

・この1年間に運動・スポーツを行わなかった人に理由を質問したところ、「好きではないから」が25.6%、「したかったができなかった」が61.8%となっており、できなかった理由としては、「仕事や家事・育児で忙しく時間がなかった」が55.4%で最も多く、「始めるきっかけがない」が27.4%で続いています。年齢階層別にみると、30～49歳では、できなかった理由として「仕事や家事・育児で忙しく時間がなかった」と答えた人が80%以上になっています。〈スポーツアンケート〉

問.（運動・スポーツを「行わなかった」「あまり行わなかった」と答えた人に）運動やスポーツを行わなかった理由は何ですか（答は1つだけ）



問. (運動・スポーツを「したかったができなかった」と答えた人に) 理由は何ですか (答は3つまで)



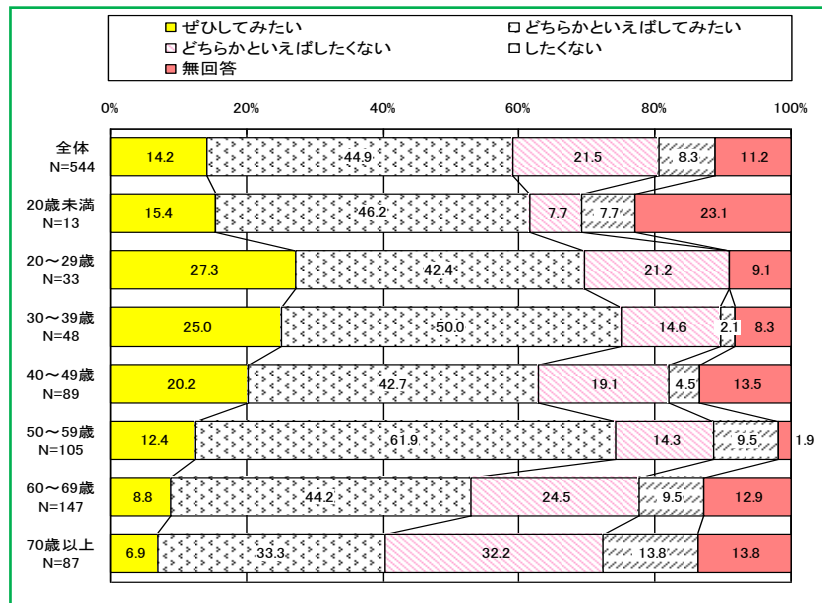
問. (運動・スポーツを「したかったができなかった」と答えた人に) 理由は何ですか (答は3つまで) 年齢階層別

(単位: %)

	運動やスポーツをしたかったができなかった理由													
	仕事や家事・育児等で忙しく時間がなかった	運動やスポーツをはじめるきっかけがない	病気やけが、高齢になった等の身体的理由で	誘い合う仲間がない	費用がかかる	つきあいが面倒、おっくうである	運動やスポーツをする場所や施設がない	運動やスポーツに関する情報がない	参加したいイベントや催し物がない	心身に障害がありできない	指導者がいない	スポーツができるような介助を受けられなかった	その他	無回答
20歳未満 N=6	33.3	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
20～29歳 N=23	52.2	43.5	8.7	13.0	34.8	13.0	17.4	13.0	4.3	4.3	4.3	0.0	8.7	0.0
30～39歳 N=30	86.7	20.0	0.0	10.0	13.3	3.3	10.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0
40～49歳 N=51	80.4	33.3	11.8	15.7	19.6	15.7	13.7	9.8	7.8	2.0	2.0	0.0	3.9	0.0
50～59歳 N=68	63.2	26.5	26.5	19.1	8.8	11.8	8.8	11.8	5.9	0.0	1.5	1.5	4.4	0.0
60～69歳 N=91	46.2	35.2	26.4	16.5	9.9	13.2	7.7	6.6	8.8	8.8	2.2	0.0	3.3	0.0
70歳以上 N=55	27.3	9.1	61.8	9.1	3.6	1.8	7.3	5.5	5.5	9.1	0.0	1.8	12.7	0.0

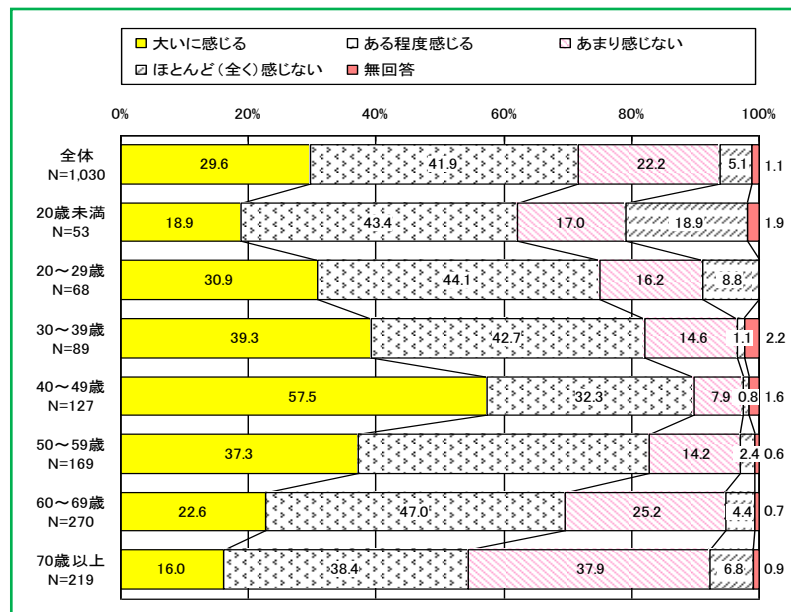
・運動・スポーツを「あまり行わなかった」「全く行わなかった」と答えた人に、「今後運動やスポーツをしてみたいと思いますか」と尋ねたところ、59.1%が「ぜひしてみたい」又は「どちらかといえばしてみたい」と答えました。「ぜひしてみたい」と答えた人の比率は20～49歳で他の年齢層より高くなっています。(スポーツアンケート)

問. (運動・スポーツを「あまり行わなかった」「全く行わなかった」と答えた人に) 今後してみたいと思いますか (答は1つだけ)



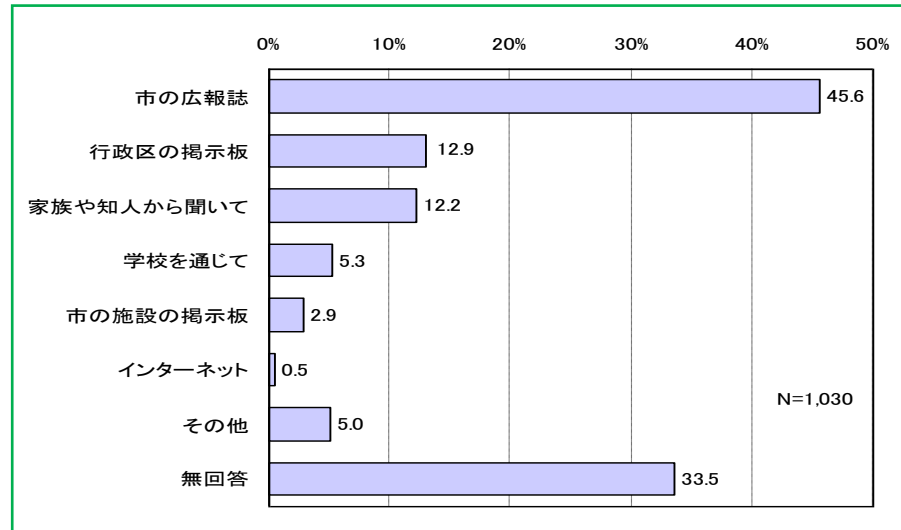
・運動不足を感じる人の割合は、「大いに感じる」「ある程度感じる」を合わせると71.5%になっています。年齢階層別では、30～39歳で80.0%、40～49歳で89.8%、50～59歳で82.8%が運動不足を感じており、働き盛りの人たちの運動不足が顕著になっています。(スポーツアンケート)

問. 現在、運動不足を感じますか。(答は1つだけ)



・大会や教室の開催をどのようにして知りましたかという問いに対しては、「市の広報誌」が45.6%と最も多く、「行政区の掲示板」が12.9%、「家族や友人から聞いて」が12.2%と続いています。〈スポーツアンケート〉

問. 市が行うスポーツ大会や教室を、どのようにして知りましたか。(答はいくつでも)



【課題】

- ・高校卒業後の人たちの、スポーツ事業への参加率が低い状況を改善すること。
- ・働いている人たちが参加できる曜日や時間帯に、気軽に始められる教室等を工夫すること。

(3) 障害者スポーツの推進

【現状】

●市や県の大会へ参加

・知的障害・精神障害者、身体障害者とも、市単位の大会のほか県単位のスポーツ大会が開催されており、本市からも毎年参加しています。

身体障害者

- ・学校の部活動を中心に、野球、陸上競技、サッカー、バドミントン、車いすバスケット等の競技者がいて、全国大会や国際大会に出場した実績もあります。
- ・聴覚障害者を例にとれば、手話などでコミュニケーションが取れれば健常者と一緒にプレーすることができ、一緒にスポーツすることを望む声が多く聞かれます。

【課題】

身体障害者

・健常者と一緒にスポーツをするために、コミュニケーション手段の確保のほか、合図を音でなく光にするなどの物理的な改善を行うこと。

知的障害者・精神障害者

- ・適切な指導者確保と、個人個人の障害の程度に合わせた支援を行うこと。
- ・日常生活の中で、健常者と触れ合いながら気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを行うこと。